

令和2年度 東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員会活動報告

活動報告書をお届けします [委員長挨拶]

東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員長
全国高等学校PTA連合会 進路対策委員
山形県立山形西高等学校 PTA会長
永森 忠大



日頃の皆様のPTA活動に対しまして改めて敬意を表するとともに感謝を申し上げます。今年度は新型コロナウイルスにより子ども達の学びがストップした状態からのスタートとなりました。改めて学校という学びの場がいかに大切であるかを痛感した1年だったのではないのでしょうか。社会や環境が目まぐるしく変わり、またその変化のスピードもどんどん速くなってきています。どんな環境下であっても子ども達の成長を止めずに子ども達が望む進路を叶えるために、今後益々学校・保護者・地域が丸となって諸課題に取り組み、我々保護者自身が学んでいかなければいけないと感じております。

コロナ禍で東北地区高P連の活動も大きく制限された年度となり、各県との情報交換も書面やリモートでの開催がほとんどになってしまいました。しかし新たな情報交換の方法として定着しつつあると感じております。ピンチをチャンスに！創意工夫しながら、東北地区高等学校PTA連合会活動が益々活発化することを願っております。

……各県の状況について……

「キャリア教育の実践と今後の展望」

山形県立米沢工業高等学校 岩倉 利憲

山形県高P連には進路対策委員会という組織はありませんが、各校単位で地元地域や学校の特色を生かした教育活動が行われています。本県は内陸や庄内地区を問わず少子化、就労人口の減少、若者の県外流出、高卒者の求人動向の低下が懸念されています。一方で世界経済は、かつて体験したことがない急激な変化を迎えており、20年後、30年後の自分の将来を見据えた進路選択を行う上で不透明さが増してきています。



本校米沢工業高校では、キャリア教育の深化を目的として、今年度より「キャリアの時間」を定期的に授業に組み入れ、生徒個人で年間目標、学期毎の学習活動や部活動、資格取得状況などの自己履歴を「見える化」し、メタ認知能力の向上を図っています。今のところ効果は未知数ですが、キャリア教育に関するPDCAサイクルを活性化し、卒業後の自分の将来像を明確に持ち、地域産業の担い手となり得る「人材」育成を今後も推進していきたいと考えています。

「コロナ禍で制限された委員会活動」

秋田県立秋田北鷹高等学校 湊屋 啓二

秋田県高P連の進路対策委員会の活動は新型コロナウイルス対策のため大半を中止せざるを得ませんでした。例年春先に行っていた複数の県内経済団体に対する新卒者採用要望は実施出来ませんでした。生徒の県内への就職希望が増加傾向となっただけに残念な結果となりました。また夏に開催していた秋田大学の保護者への説明会も中止となりました。各学部毎の授業内容や施設が直接見学でき参加保護者からも安心して子供を受験させる事ができるなどの声も多く好評でした。こうした意見を踏まえ令和2年度は県立大学や私立大学にも拡大予定でしたが叶いませんでした。私がPTA会長をしている秋田北鷹高校では進学対策として各学年毎の進路ガイダンス、各大学、専門学校による説明会や出前講座を実施しておりオープンキャンパスにも積極的に参加させています。また就職対策はハローワークの協力を得て地元企業数十社による説明会を実施することが出来ました。いずれにしても生徒の進学や就職に大きな影響を及ぼしているコロナウイルス感染が一日も早く終息することを願っております。



令和2年度 東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員

委員長 永森 忠大 (山形県高等学校PTA連合会会長)	委員 三浦 繁子 (青森県立青森中央高等学校)
副委員長 岩倉 利憲 (山形県立米沢工業高等学校)	委員 海山 忠 (岩手県立大船渡東高等学校)
副委員長 湊屋 啓二 (秋田県立秋田北鷹高等学校)	委員 小野 明子 (宮城県宮城第一高等学校)
	委員 半谷 修一 (福島県立相馬高等学校)

「この社会と向き合い、時代を切り拓いていく」 青森県立青森中央高等学校 三浦 繁子

毎年開催されている進路対策委員会研修会が、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できませんでした。例年、各校毎に実施されていた上級学校体験入学や職業講話、進路説明会なども縮小もしくは開催すらできなかつた高校もあったようです。入試や就職に対する不安やご意見も聞こえてきています。「オープンキャンパスがWEB開催のケースが増え、実際に学校を見学しないまま受験校を決定しなければならぬ」「オープンキャンパスが予約制のため、予約が取れず打ち切られた」「職場見学の時期が遅れ、応募する会社をなかなか決めることができない」「ZOOMでの面接試験に対する不安がある」など様々な課題がでてきています。

このように今までに経験したことのない状況への対応が求められています。しかし、大人ばかりが大変なのではありません。子ども達もこの時代を切り拓いて生きていかなければなりません。私たち保護者・PTAとしては、この状況に一丸となって向き合い、今後の進路課題について積極的に学ばなければならぬと感じております。



「サポートを学ぶ「講演会」」

岩手県立大船渡東高等学校 海山 忠

岩手県進路対策委員会では、進路決定のあり方や新卒の離職率が高い問題など、各高校の特色や、地域の枠を超えた共通の話題を参加者と共に考えるための研修として講演会を企画しました。新型コロナウイルス感染防止のため、残念ながら規模を縮小しての実施となりました。講演会は、キャリアカウンセリングやコーチングを得意分野とし、高校や大学、企業の新入社員教育等の講演会で活躍されている平野順子氏に「社会で活躍する人材を育てるために」と題した講演を頂きました。若年層の就職後の現状、求められる人材像、社会で活躍される人材を育てるために、という構成で、進路決定に向けた子どもへの対応、及び進路決定後や入社後の心の変化などにポイントをあてた内容で、仕事に対してリアルなイメージを持たせること、自分で考える力や行動する力を培わせるためのサポート（支援）方法など、保護者、教員それぞれから、家庭や学校現場で生かされる内容であったと、たいへん好評でした。



「どんな時も最大限の応援を！」

宮城県宮城第一高等学校 小野 明子

宮城県高等学校PTA連合会進路対策委員会では、進路対策委員会所属校が編集を担当し、各校の進路対策の取組を情報発信するため、「進路だより」を年3回発行しています。また、研修の一環として本年度は、仙台ハローワークの方を講師としてお招きし「コロナ禍での就職(求人)状況等について」と題し講演いただきました。講演では、高校卒業、大学等卒業のそれぞれについて、従来とコロナ禍の現状との違いについて様々なデータを元にわかりやすい解説があり、今後の対策や課題について保護者として取り組むべき丁寧な説明がありました。

日々進歩する情報化社会に加えコロナ禍により、一層厳しさが増す社会情勢ですが、様々な情報から多様な価値観を見出し、子ども達の進路実現に向けて保護者として、学校や保護者同士の連携を強化していきたいと思っております。ぜひ、来年度は対面にて本会が開催できるよう新型コロナの収束を祈念いたします。



「コロナに負けず」

福島県立相馬高等学校 半谷 修一

令和2年は年明け1月ころから新型コロナウイルス感染が世界的に蔓延しはじめ連日マスコミで報道されました。福島県は、3月ころから感染防止のため様々なイベントが中止や延期となり、人生の節目となる卒業式、入学式も時間や規模を縮小した形で開催となりました。PTA活動は、新型コロナ感染症の拡大を受け、役員の選出ができずにいる団体や総会を書面総会に変更するなど、運営に苦慮しました。このような中、福島県進路対策委員会は、同一行動はとらず各校のPTAが地域の感染状況を勘案して動くことになりました。各校は、例年のオープンキャンパスの団体参加を見送る一方、就職模擬面談や推薦面談の実施、進路対策から外れますが朝の挨拶運動や自転車の安全点検など、できることを着実に進めてきました。生徒達は、10年前の東日本大震災や原子力事故、一昨年の東日本台風災害、そして新型コロナウイルス感染症の拡大といった苦境の中、遅しく成長してきました。生徒達がこの経験を「強いばね」に代え、今後の未来に活かしてくれればと節に願います。

